

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

都道府県・
指定都市名

香川県

地域名

高松市・一宮中学校区

人権課題

同和問題・高齢者・障害者・ハンセン病患者等・性的指向、性自認

目標・人権教育
のねらい

地域のなかで暮らす一人ひとりの人権感覚が高まることによって、一人ひとりの自主性や社会性などの人格的な発達や学力形成が図られることをねらう。

各組織の動き・役割等

一宮中学校区人権教育総合推進会議
→指導計画の整備一宮中学校区人権教育総合推進会議
→地域が一体となった人権教育について報告・
相談・協議魅力ある校区をつくる会
→校区を超えたより広い地域が一体となった
人権教育について報告・相談・協議

香川県教育委員会

高松市立一宮中学校：指導計画に則り、同和問題、障害者、性的指向、性自認について、公開授業や講演会を通じて学習した。

一宮中学校区人権教育
総合推進会議

高松市教育委員会

高松市立一宮小学校、高松市立鶴尾小学校：指導計画に則り、同和問題、高齢者、障害者、ハンセン病患者等、性的指向、性自認について、公開授業や講演会を通じて学習した。

近隣4中学校8小学校

各校PTA

各校学校運営協議会

文化センター
(隣保・児童館)

高松市立一宮幼稚園：指導計画に則り、なかまづくり、性的指向、性自認についての公開保育や講演会を通じて学習した。



【奈良県で合同現地研修】

校種間連携の概要

幼小中の教職員が共に研修を受け、共に授業研究を進めることで、つながりが密になり、日ごろから情報交換をしながら、日々の子どもの指導に当たれるようになった。

地域・関係機関
との連携の概要

文化センター（隣保・児童館）を核に連携し、さらに深く子どもの背景をふまえた指導をすることができた。また、地域啓発チラシを地域に広く配布することで、人権教育に関する地域社会の理解を深めることができた。

事業成果

- ◎知識的側面：教職員が正しい部落史認識をもつことができ、自信をもって授業を行った結果、子どもの部落問題に関する認識が深まった。
- ◎価値的・態度的側面：なかまづくりの実践を進めることで、子どもたち同士の発する言葉一つひとつが丁寧で他者を尊重したもの、多様性を認め合うものに変容してきた。教職員においても、子どもの見方・関わり方が変容した者が多い。
- ◎技能的側面：なかまづくりの実践を通して「人の良さを見つけ出す技能」の高まりや、部落問題学習を通しての「差別解消に向けた具体的な言動が取れる技能」の高まりを実感している教職員が多い。

☆生徒自己評価アンケートでは、人権感覚に関する項目の6月と12月を比較すると、多くの質問項目で肯定的な回答が上昇した。

☆学力面では、人権教育の充実により授業改善が行われ、安心して学びに向かうことができるようになり、すべての教科で県、市平均との比較において向上した。